

JOMF 派遣医師便り (2014. 11)

◆シンガポール◆

緑内障の新たな治療法～新技術とビジネスモデル

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

先ごろ、Straits Times という新聞に以下のような記事が載っていた。それによると、南洋技術大学と国立眼病センター^{註1}に所属する3名の医師、科学者らが、今年の大統領技術賞に輝いたとのことである。受賞の理由は、緑内障^{註2}の画期的な治療法を開発したこと。緑内障の進行をくいとめるには、これまで、毎日の点眼が欠かせなかったが、この治療法では数か月に1回の簡単な無痛の注射で済む。注射された極小の薬剤 (Nanomedicine) は徐々に放出されるために、効果が長期持続するのである。今後2年以内には商業的にこの治療が開始されることになるとのことである。Nanomedicine の分野は開発に時間がかかるのが常とされていた。これまでは早くとも7年、場合によっては20年がかかっていた。それが今回は4年半で出来たことも特筆に値する。また、この技術は、他の疾患の治療にも応用可能と考えられることも今回の受賞の大きな理由と言えるようである。

そうした技術のすばらしさもさることながら、この記事の最後にこうしたプロジェクトが成功するには、それに見合ったビジネスモデルの構築が大切であると記されていたことが印象的であった。

Straits Times 誌はシンガポールで最大の発行部数を誇る新聞であり、現在は実質上、政府の方針を国民に伝える新聞であることで知られる。

世界では、医療は他のサービス業と変わらぬサービス業であるため、経済的な視点から見るとは当然であると思っただけだが、この国の医療に対する姿勢を改めて確認した次第である。

註1 国立眼病センター (National Eye Center) : いち早く近視に Lasik 治療を採用し、普及させたことでも有名。

註2 緑内障 : 眼圧の上昇などにより、視神経が傷害され、徐々に視野が狭くなり、無処置ならば失明にいたる病氣、40歳ぐらいから罹患する人が増えてくる。